

複数主治医制に関するアンケート

 プラメドの 
医師会員に
聞きました!

調査概要

プラメドの医師会員に聞きました！とは…

「プラメド会員の先生が他のプラメド会員の先生に聞いてみたい」テーマで実施するアンケートです

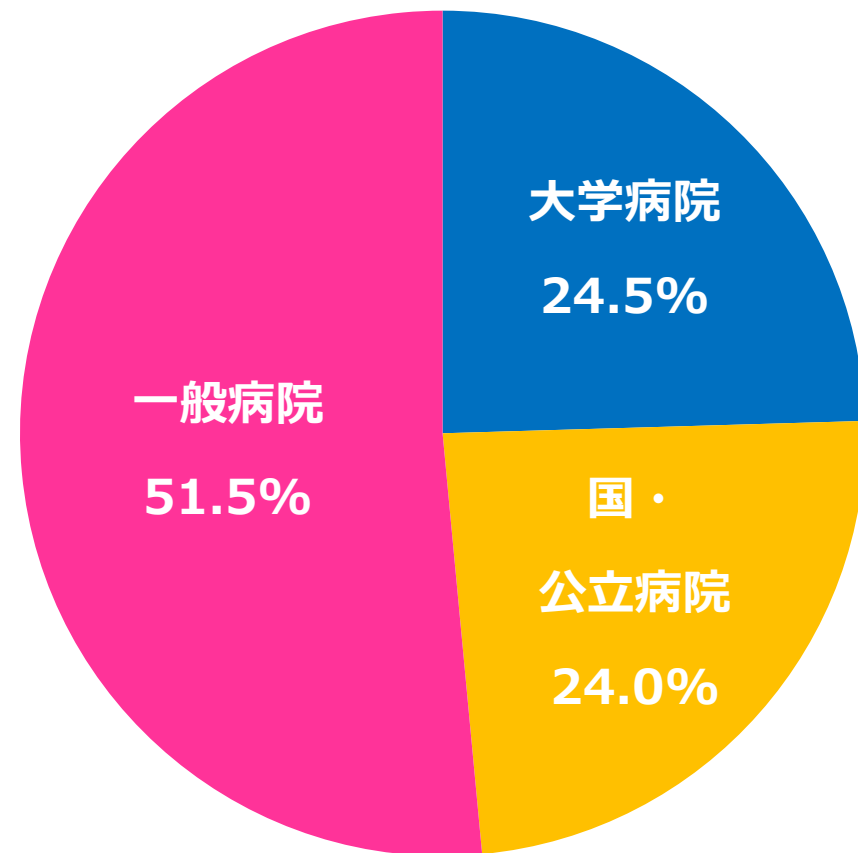
- ◆調査名 : 複数主治医制に関するアンケート
- ◆調査期間 : 2019年8月14日（水）～22日（木）
- ◆調査手法 : インターネットアンケート
- ◆対象者 : プラメド会員の先生
- ◆回答者数 : 1,072名

- ◆調査概要 :
 - ・主に診療している所属科での複数主治医制の導入状況
 - ・複数主治医制のチーム体制
 - ・複数主治医制のメリット・デメリット
 - ・複数主治医制における医師間のコミュニケーションにおいて、工夫していること
 - ・（複数主治医制を導入していない先生の）複数主治医制の導入意向

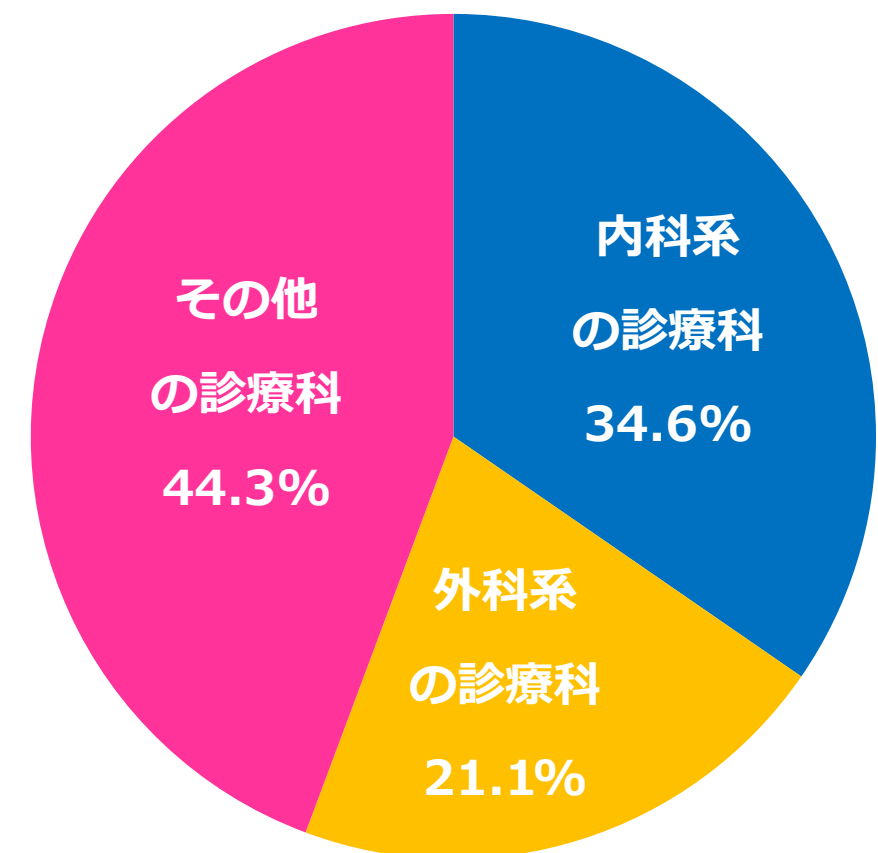
※調査結果内のN表記について：N=総回答者数、n=一部の回答者数を表しています。

回答者の属性 (N=1,072)

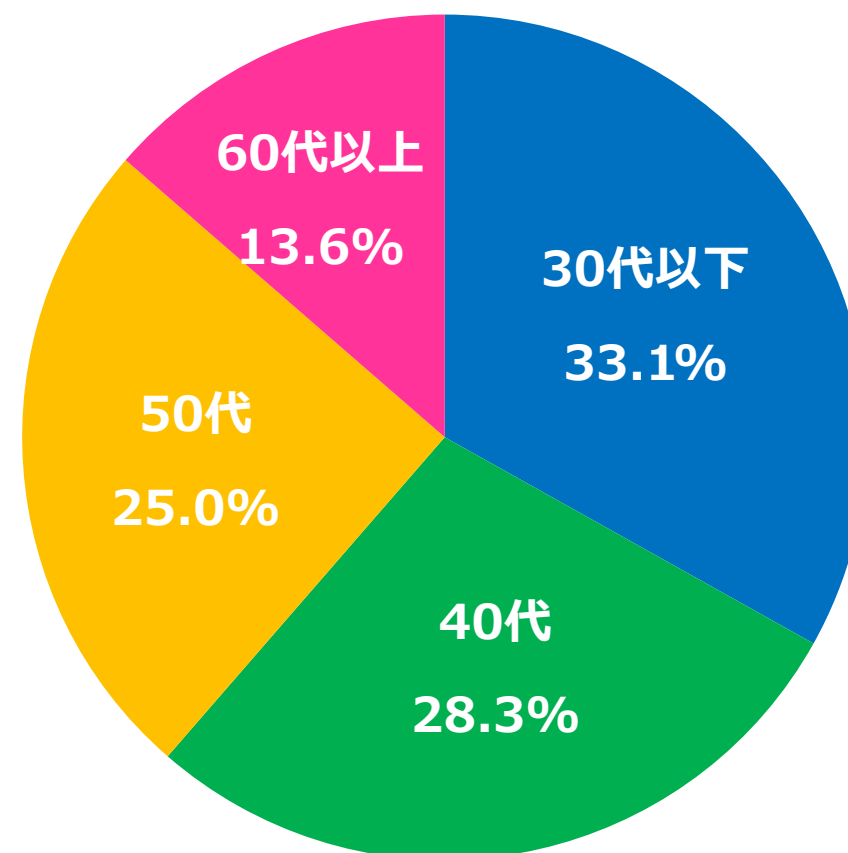
< 施設形態 >



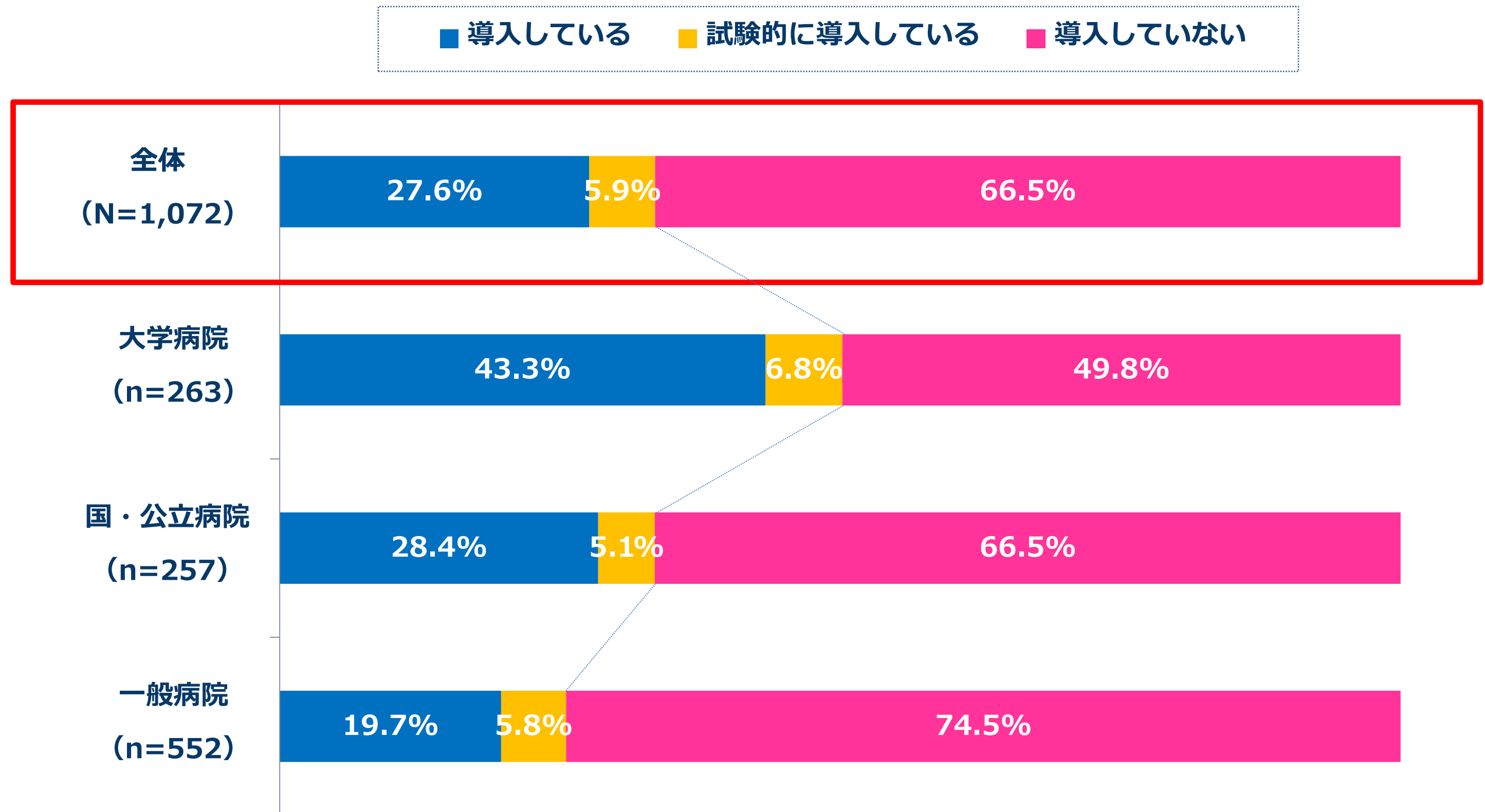
< 主診療科 >



< 年代 >

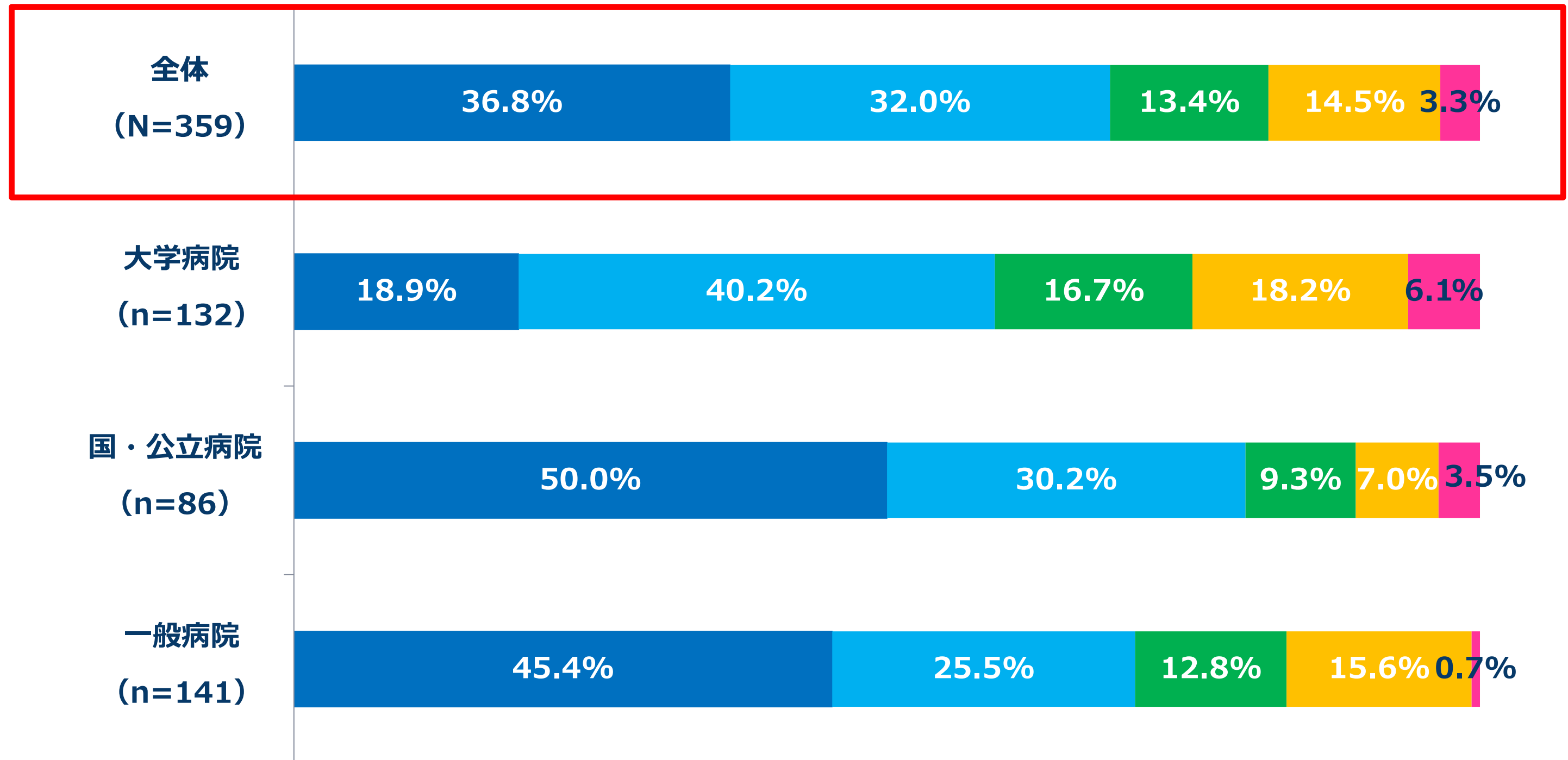


主に診療されている所属科での、複数主治医制の導入状況 (施設形態別)



◎主に診療されている所属科での複数主治医制の導入率は、全体で約3割であった。施設形態別に見ると、大学病院での導入率は約5割と最も高い割合となった。

複数主治医制のチーム体制 (医師数)



◎複数主治医制のチーム体制は、全体では医師2名または3名体制が多かった。施設形態別に見ると、大学病院では3名体制、国・公立病院／一般病院では2名体制の割合が高く、施設形態によってチーム体制に特徴が見られた。

複数主治医制のメリット・デメリット

※複数主治医制を（試験的に）導入していると回答された先生

医師のプライベート
時間が確保される

常に補完し合えることで、
診断・治療のミスが減る

他の医師の指示を把握
できていないことがある

休んだ後に考えとは違う
指示が出ていて合わせる
のに困ることがある

代診が立てやすく、
出張など行きやすい

ディスカッションしやす
いため、医療の質の向上
に繋がる

意見の違いで治療の
決断が遅くなる

自分の思った治療が完全
には実行できない

責任の分散化

多角的な見方
ができる

責任の所在
が不明確

指示の一貫性
がない

治療方針を
協議できる

呼び出しなど
の負担が少ない

治療方針の
すり合わせが
難しい

把握する患者
の数が増える

症例検討が
こまめに出来る

治療方針に
一貫性を持
たせられる

情報の共有が
不足する場合
がある

検査や処方など
が重複すること
がある

メリット

デメリット

医師間のコミュニケーションにおいて工夫していること

※複数主治医制を（試験的に）導入していると回答された先生

情報共有

1日1回は全員で集まり方針を確認する

カンファレンス以外でも極力相談する

連日引き継ぎの時間を作る

朝夕2回申し送りをしている

SNSなどでの情報共有

カルテとは別にグループの医師の連絡帳を作っている

医局のホワイトボードに、気になる患者さんの情報を書いて共有する

カルテに方針を記載

チーム体制

メインの主治医を決めている

指導医、専修医、研修医など経験の異なる3人でチーム編成している

治療

患者さんへの説明が二転三転しないように、IC等は片方の医師のみが行う

休暇の前日には全員で回診を行う

その他

入院時のサマリは入院後即記載する

処方する薬をできるだけ統一する

バリエーションのある治療に対して、他の医師が処方したものは受け入れる

患者情報を質問し、理解度確かめる

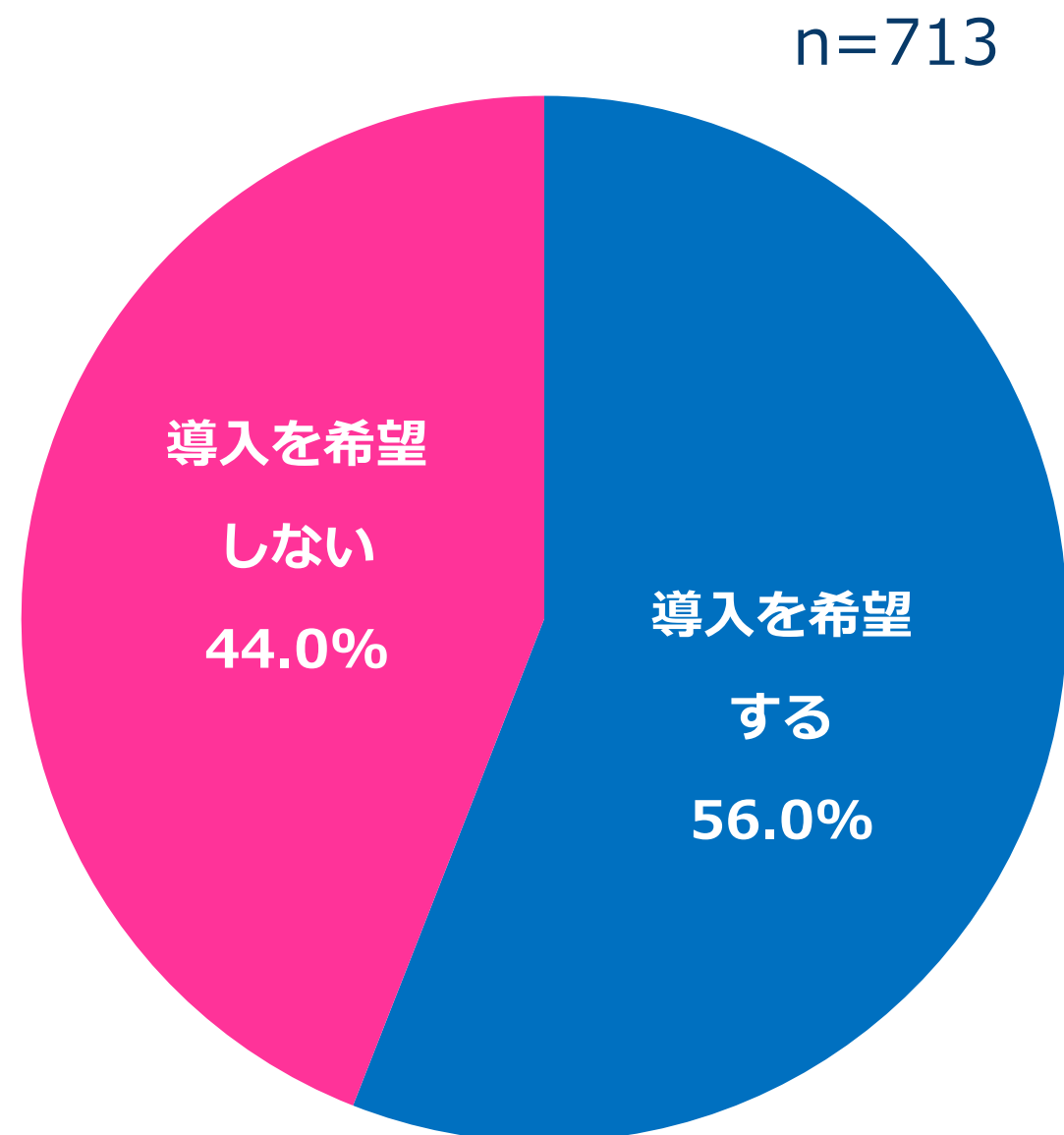
疾患別に治療内容をある程度決める

互いを信頼・尊重していることを言葉で表明するように心がけている

原則的に外来前に回診している



先生ご自身の、複数主治医制の導入意向※複数主治医制を導入していない先生



導入を希望する理由

- ・ 日常診療での見落とし等のミスを防ぐことにつながる
- ・ 勤務時間外での呼び出しの減少につながる
- ・ 医師のQOL向上につながる
- ・ 方針決定共有によるリスク分散と、時間外労働の節減
- ・ 多角的に患者さんを診られる
- ・ 責任の分散化
- ・ 育児などの理由で時間の拘束がある医師でも、複数主治医制を導入することで仕事への復帰が容易になる
- ・ 休日および手術中の負担の均等化ができる

導入を希望しない理由

- ・ 方針が微妙に異なったり、患者さんへの説明内容が異なることが懸念される
- ・ 患者さんの立場で考えると、主治医は1人のほうが良い
- ・ 責任の所在が不明確になる
- ・ 重要な局面で誰の見解が優先されるのか不明瞭
- ・ 精神科では患者さんとの信頼関係構築が難しい
- ・ 執刀医が主治医が一番明確なため
- ・ 長期経過を見る中で、なるべく自分で診ていきたい
- ・ 同じ程度の能力を持つ医師が揃っていないと難しい
- ・ 意見や考え方が異なる時、治療を進められない

PLAMED

PLATFORM FOR MEDICINE